

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その90-② (後編)

文：鈴木 圭介

井谷村のロマン —水路の遺構—

(前号よりつづき)

井谷には江戸時代中期に開田されたと推定される美しい棚田があります。その棚田を潤す「大平堰」は井谷川の上流から水を引いており、井谷の集会所横(標高 190 m)を通っています。「万之丞せき」の標高は、およそ 230 mなのでこれより約 30 m以上高く、水源地は井谷集落の上部に相当します。私が考える水源地は集落の上手の「水上林」になります。水上林にはブナ林が広がり、当時は水量が豊富であったと考えられます。

井谷から樟山への峠道(旧道)の下塔婆様の三叉路に「右樟山奥川左柴崎津川」の石の道標があり、私が中学を卒業した昭和 27 年(1952)頃まではこのすぐ下手に 20 アールほどの見事なブナ林がありました。数百年前の水上林もすべてブナで覆われ、沢には豊富な湧き水がいつも流れていたと考えると水路の工事計画は理解できます。

謡曲「玉葛」は 600 年前に作られた作品で、奈良・長谷寺(真言宗豊山派本山)近くの「初瀬川」で女の人が舟を漕ぐ場面があります。今では水無川同然の川ですが 500～600 年前には、常に舟を漕ぐほどの水量があったという証拠になります。

一般に人が住み始めると、建築材や燃料を近くの山林に求め、徐々に天然林は里山の薪炭林に代わってしまいます。たとえ小さな集落であっても、長い年月のうちに周囲の天然林を壊してしまうことになります。

最近、万之丞の手がかりとなりそうな人物が分かりました。先にこの欄で書いた「明神橋物語」の関連で新郷村、登世島村、山郷村 3 カ村の借金保証人が木曾、西羽賀、山郷 3 カ村組合長の田代万之丞殿となっていました。

山都(木曾)の田代家は、代々、肝煎の家柄で事業家でもありました。その後、一族は都会に出て、現在は屋号の判別できる土蔵のみが残っているそうです。この家の万之丞を襲名した誰かが、水路工事を進めたのは間違いないでしょう。

私が若い時にキノコ採りで発見した遺構の場所は、近年、林業機械が入り伐木運材を行っていたので探すのは難しいと思います。



▲ 下塔婆様の道標

今月の表紙

先月10月号から「西会津町誕生70周年特集」を掲載しています。先月号でもお知らせしたとおり、特別企画として10月号から来月12月号までの3つの表紙を横に並べると1枚の風景写真になります。また、今回使用している写真は西会津町の職員がドローンで撮影したものです。町ホームページなどにも使用されており、町を俯瞰して見渡せる貴重な写真です。

編集後記

「西会津学びあいランド」の取材に伺い、学年、世代を超えて交流する皆さんの姿に授業だけではなく西会津らしい「学び」を感じました。



▲ 健康スポーツランド